

2030年。日本は ユートピアかディストピアか ～混乱と混沌～

ヒューマナライズマーケティング研究室

株式会社ペンシル

2022年3月



NETWORK



STRATEGIC



CREATIVE



COMMUNICATION

～前回の振り返り～

はじまり

SDGsとは？

2021年10月。SDGsが始まって6年が経ちました。
世界的にも促進され、日本企業も積極的にこの取組みに参加しています。
では、SDGsとは一体何をしようとしているのでしょうか？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

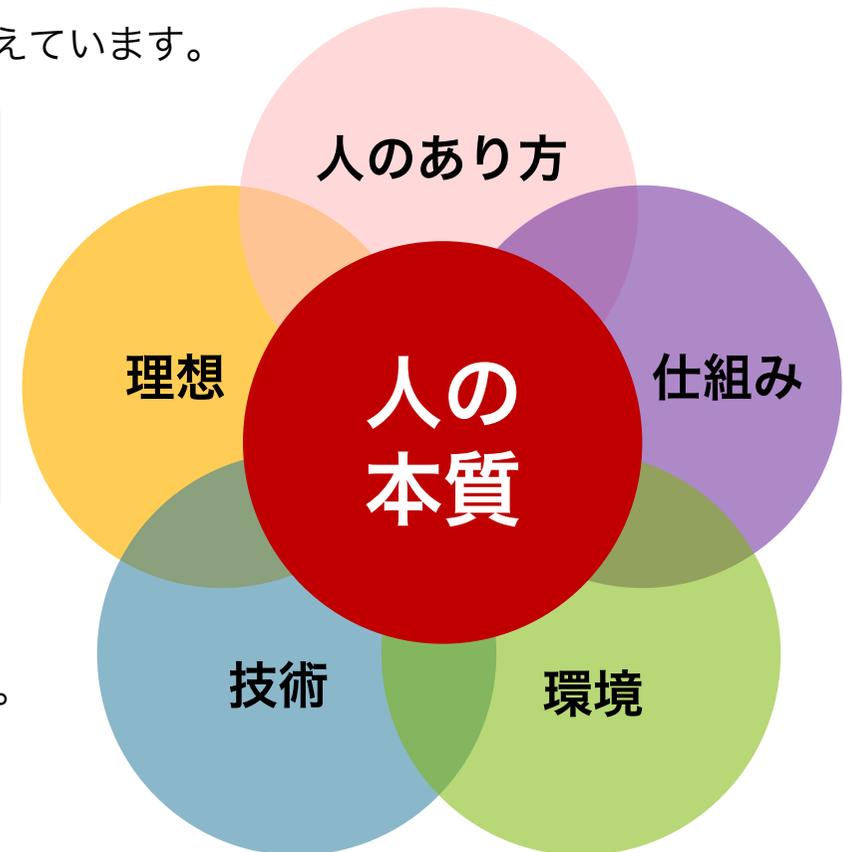
持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本も積極的に取り組んでいます。

これらを実現すること。つまり
日本は今、**社会のあり方を変えようとしているのです。**

社会が変わるとは？

では社会が変わるとは、「なに」が変わるのでしょうか？
我々は大きく以下の5つの要素が変わり、干渉し合うことだと考えています。

- ・ **人のあり方** ・ ・ ・ 主流の考え方や人の立場
- ・ **理想** ・ ・ ・ 社会的に良しとされるもの・状態
- ・ **仕組み** ・ ・ ・ 政治の状態や働き方など
- ・ **技術** ・ ・ ・ 科学技術やエネルギー技術など
- ・ **環境** ・ ・ ・ 自然環境や取り巻く経済状態など



その反面、絶対に変わることができないものもあります。
それが**人間のコア**となる部分、『**人の本質**』です。
この『人の本質』には、心理や動物としての本能なども含みます。
そして、良い変化・悪い変化に関わらず、
あらゆる変化は人の本質を経由します。
それによって円滑に変化が進む場合もあれば
人の本質が変化の壁となる場合もあります。
変化を起こすのであれば、このことを理解しておかねばなりません。

これらの観点から**日本の未来とSDGs**を考察していきます。
果たして日本は本当に変わることができるのでしょうか？

SDGsが生まれるまで



エネルギー革命

高度経済成長



重工業化



デジタル革命

コンピュータの活用



生産の自動化・効率化



変化による問題の顕在化

理想と人のあり方の不一致

格差

環境問題

公害問題

少子高齢化

社会を変える取組み

対策としてのMDGs

 貧困飢餓 極度の貧困と飢餓の撲滅	 妊産婦 妊婦の健康の改善
 初等教育 初等教育の完全普及の達成	 疾患 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾患の蔓延の防止
 平等 ジェンダー平等推進と女性地位の向上	 環境 環境の持続可能性の確保
 乳幼児 乳幼児死亡率の削減	 連帯 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

刷新としてのSDGs



 1 貧困をなくそう	 2 飢餓をゼロに	 3 すべての人に健康と福祉を	 4 質の高い教育をみんなに	 5 ジェンダー平等を実現しよう	 6 安全な水とトイレを世界中に
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 10 人や国の不平等をなくそう	 11 住み続けられるまちづくりを	 12 つくる責任 つかう責任
 13 気候変動に具体的な対策を	 14 海の豊かさを守ろう	 15 陸の豊かさも守ろう	 16 平和と公正をすべての人に	 17 パートナーシップで目標を達成しよう	 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

まとめ

2つの大きな変化

理想を追いかけ

社会を変える
取組み

技術・仕組みの発展・刷新によって

人の本質が追いつかず

環境・人のあり方に生じた歪み

デジタル革命

コンピュータ
の活用

生産の
自動化・効率化

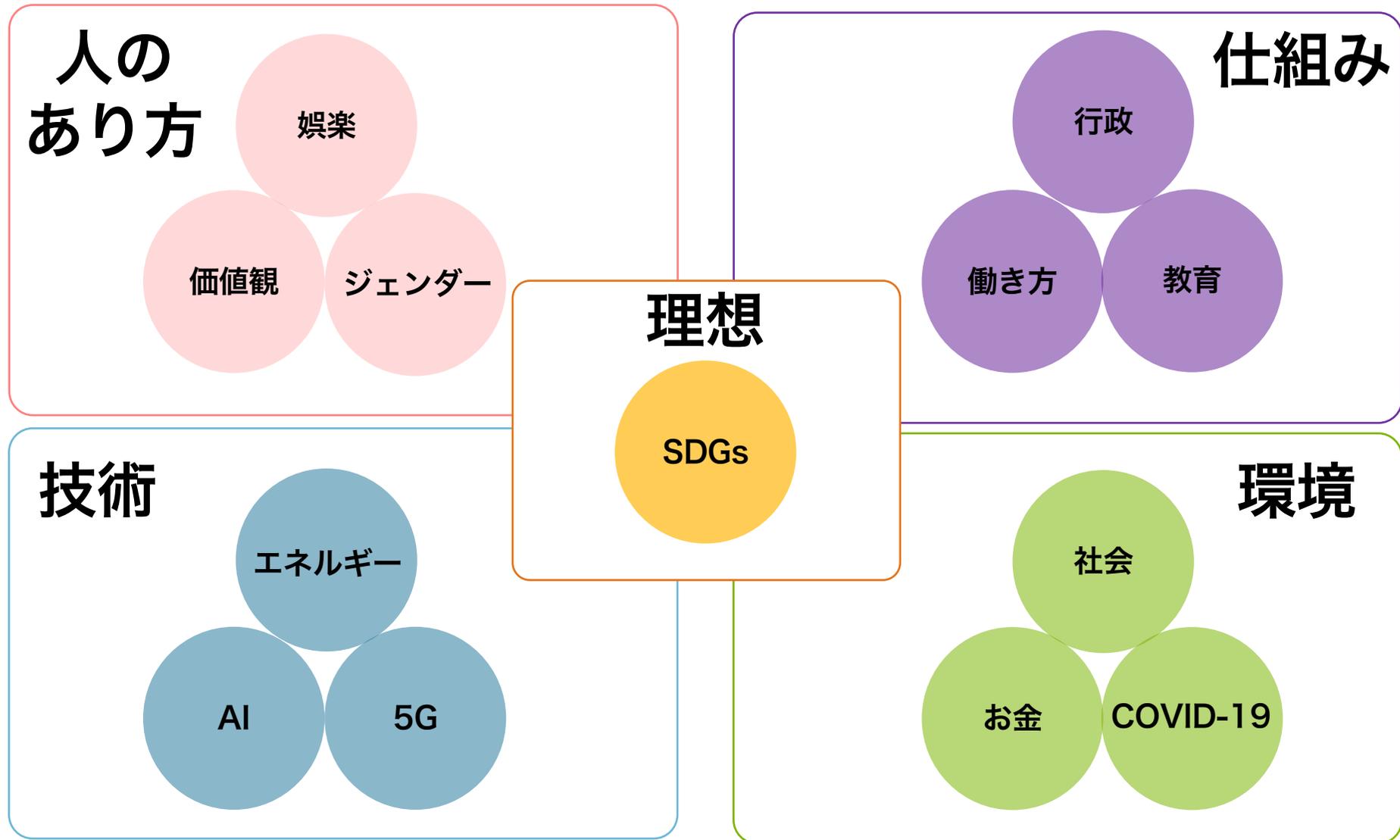
それが

17の目標で解決すべき課題なのです



变革

様々な変革が起こりつつある



変革が生み出すSDGsの理想の変化



変革が生み出すSDGsの未来

今起こっている革新がうまく作用すればSDGs
17の目標の達成に大きく近づきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



～もくじ～

公開情報

公開済み

は
じ
ま
り

公開済み

変
革

今回！

混
乱
と
混
沌

未
来

もくじ

混乱と混沌

●概要

- ・ 導入
- ・ 全体像～変革の影～

●変革と歪み

- ・ 変革は歪みを伴う
- ・ アンチイノベーション
- ・ 妖怪の存在
- ・ 変革に関する情報は歪んで広まっていく
- ・ 理想と現実の食い違い
 - ①多くの人と繋がれる世界
 - ②楽で便利な世界

●新たな格差と歪む理想

- ・ 生まれる_新たな格差
- ・ 格差が生まれる意味
- ・ 歪む理想

●次回予告

概要

導入

混乱と混沌

変革の裏にある影…

急速な変革により、社会は良い方向へ進んでいるように見えます。
しかし、人の本質はすぐには変化しません。

変化を拒む人の本質と変革し続ける世界

格差を埋めるために…世界を良くするために…生まれた変革が
新たな格差を生む…？！

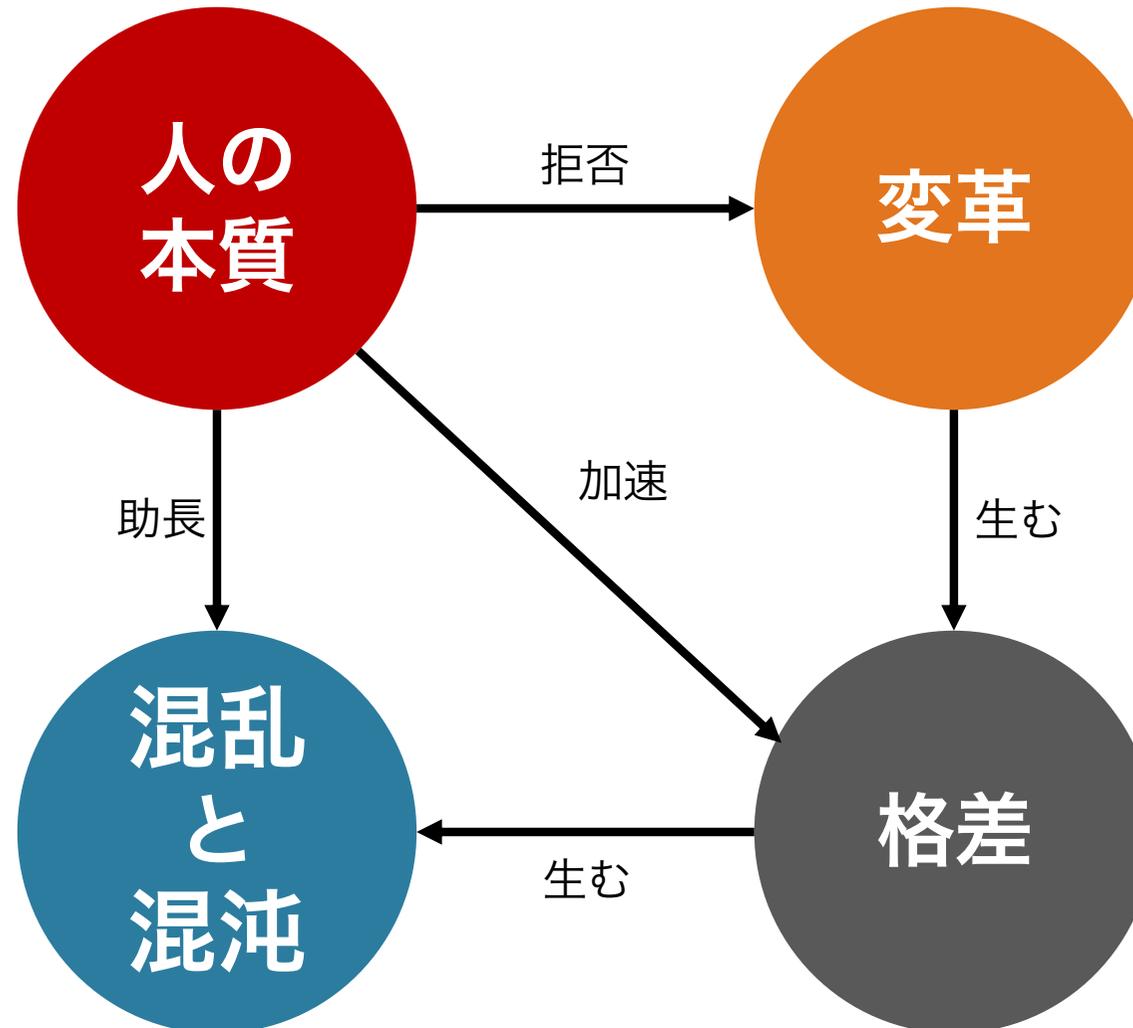
そして訪れる**混乱と混沌**

果たして人は今、変化に適応できるのか…？

人々は**何を選び何を置いていくのか…？**

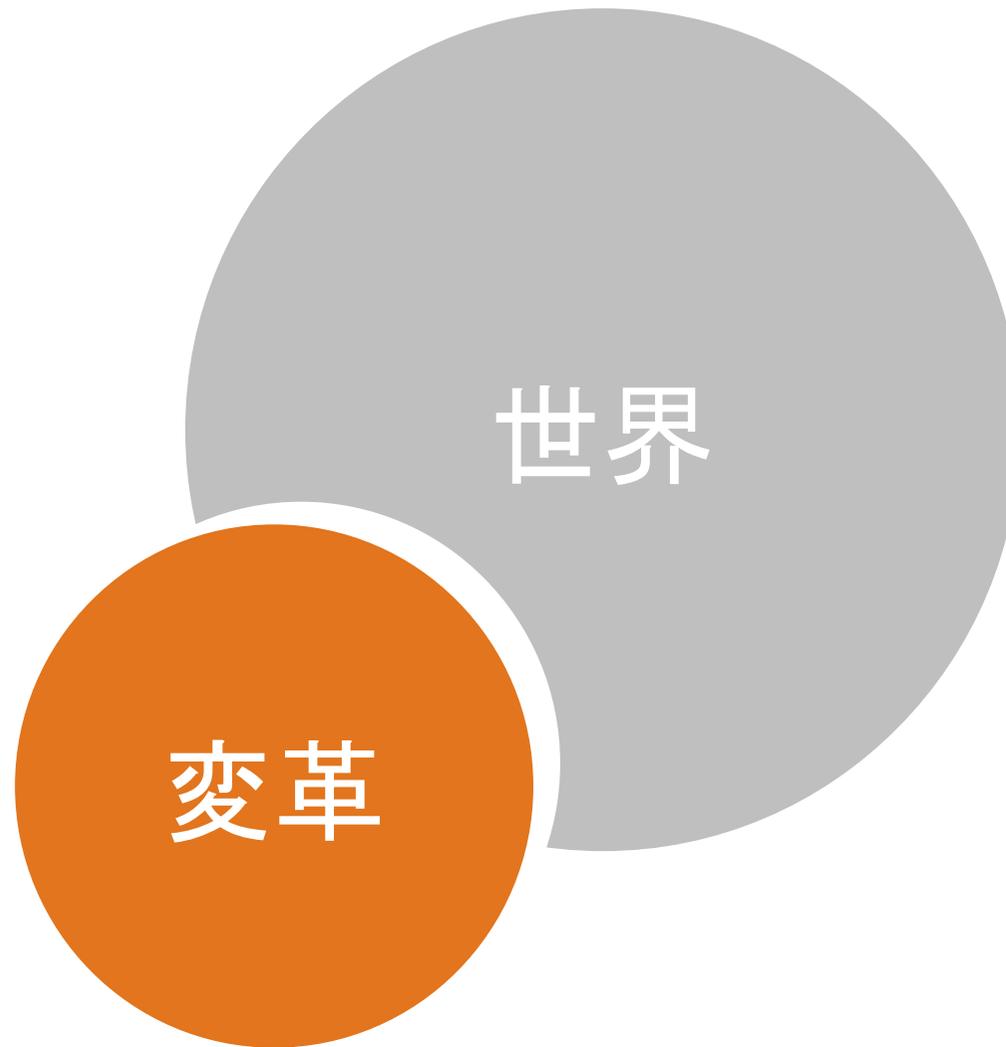
変革の影

本ホワイトペーパー『混乱と混沌』編では**変革に対する人の本質の反応**とそれが生み出す**新たな格差**について考察していきます。



変革と歪み

変革は歪みを伴う



何かが少しでも変わる・進歩するということは、これまでの日常にも、私たちが過ごしている世界にも何かしらの形で変化が訪れるということです。

そうすると必然的に、歪みが発生します。朝起きる時間を少し早めるという変化を起こしただけで、目覚めが悪かったり日中のパフォーマンスが落ちたりといった様に。

アンチイノベーション

ここで厄介なのは人の本質による変化への拒否反応です

人の 本質

そもそも変化が嫌い

「新しい」が嫌い

人は、新しい考え方やアイデア、創造的な考え方を嫌うように進化してきました※1)。

「新しい」・「創造的」は本人の体験や記憶に存在しない不確定な要素であるため、それを避けるようになっています。

現状維持バイアス

人には、新しいもの・未知・進歩・周りの人や環境の変化を避け、現状を極力維持しようとするバイアスがあります。良いと分かっているにもかかわらずなかなか行動に移せないのもこのバイアスが関わっています。

信じたいものを信じる

人には、確証バイアスという、無意識に自分が支持する考えに有利な情報ばかりを集めてしまうバイアスや、専門家の意見より多くの素人が言っている意見を信じてしまう※2)という性質が備わっています。

一度信じると頑な

研究により、人が一度信じたこと・思い込みなどを修正することはほぼ不可能だということが分かっています※3)。
何かしらのフェイクニュースなどを信じてしまうと、それを修正することは難しいのです。

人の本質の変化への拒否反応は、変化そのものを拒否するだけでなく、変化に関する情報の解釈すらも歪めます。また、仮に変化を許容できるような状態になったとしても変化への疑念は根深く残り続けてしまいます。

妖怪の存在

さらに、人間は「理屈とは合っていないもの」「不確かなもの」も真実として捉えてしまいます。その一例が妖怪です。

妖怪とは？

妖怪とは、1000年以上前位から伝承され続けている「人間に何らかの感情や行動を生じさせる、未知なる奇怪な現象または異様な物体」のことを指します。簡単に言うと、非現実的で非科学的な不思議な現象や力の象徴です。伝承を見ていくと、科学が世界の謎を解き明かす度に妖怪の正体が明らかになっていることから、妖怪は人間が不思議な現象に対して名前をつけて生み出した一時的な虚構とも捉えられます。

科学が発展した今でも存在

しかし、科学が大きく発展し、世界の謎が多く解き明かされつつある今でも、妖怪は存在し続けています。例えば、夜道に「わたしきれい？」と大きなマスクをした女性が話しかけてくると、多くの人は同じ姿・名前を浮かべることでしょう。これは集団が共通認識として「口裂け女」という妖怪の名前・姿を持っているからです。そして、日頃は存在しないと思っていたとしても、恐怖感を覚え、虚構が一気に真実味を帯びます。この様に、集団が共通認識を持つと何かのきっかけで真実として振る舞われます。

結果として、どんなに「理屈にはあっていないもの」でも「不確かなもの」でも**集団として信じてしまうとそれは現実として働きます**。フェイクニュースなどもその例です。

つまり人の心が生み出した…

=



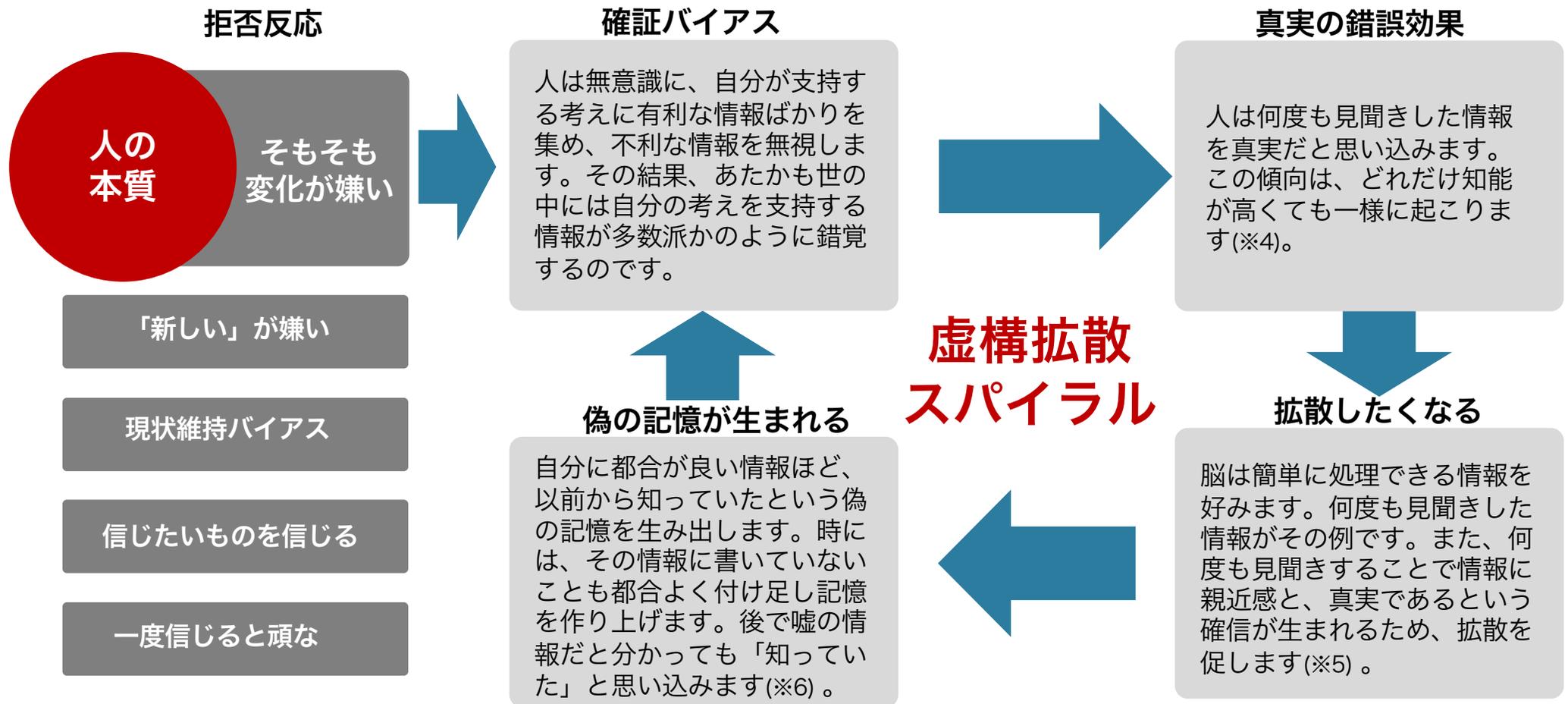
しかし集団が信じている

=



※科学的には存在の証明がされていないというだけで妖怪が存在しないとは限りません。弊社では『妖可視』プロジェクトとして、妖怪の研究も行っています。

変革に関する情報は歪んで広まっていく



結果として、変革を嫌う人間の一部が発信した情報は**フェイクニュースであっても真実として脳に刻まれてしまいます。**

また、こういった情報の広がり方だけでなく、変革そのものに対する人の本質の反応は変革の理想と現実の間に食い違いを生みます。その食い違いも変革の広まりの壁となりえます。

理想と現実の食い違い① 多くの人と繋がれる世界

理想

SNSの活用により

- ・多くの人とつながることができ、多くのコミュニティに所属する事ができます。
- ・対面でのコミュニケーションが苦手な人にとっても、そのハードルを下げる事ができ、活発な人間関係を促します。
- ・SNSにおいて本当のことを発信している人は人生の満足度が高いことが分かっています(※7)。そのため自己表現の場としても活用することで、誰でも手軽に人生の満足度を高めることができるツールとして機能します。
- ・出会いがオンラインだったカップルはその後の満足度も高く離婚率も低いという研究もあります(※8)。これは、対面よりも、直接会う前に自己開示を多くし合うことができるからだと考えられます。

現実

◇SNSでメンタルが悪化する

- ・SNSの利用でメンタルが悪化することが多くの研究で分かっています。多くの人とつながることができるようになった反面、自分との比較対象も増えてしまったため、自己批判の材料になってしまうことが原因の1つとして考えられます(※9)。

◇SNSで孤独感が増す

- ・長時間SNSを利用しているユーザーは、そうでないユーザーに比べ、孤独感が高いことが分かっています。もちろん因果関係が逆の可能性もありますが、その場合でもSNSでは孤独感を完全には埋めることができていないということになります(※10)。

◇それだけ多くの人間関係を処理できない

- ・人間が、関係性を維持できる数は150人程度と言われています。多くの人と繋がれるようになったとしても、関係性を精査しない限りは、そのメリットを享受できないのです。

多くの人とつながることができ、関係性の幅を広げるチャンスが増えたとはいえ、**人間はそれに適応することができていません。**

一見、メリットに見えるSNSの側面が人間にとってはデメリットになってしまっています。

理想と現実の食い違い② 便利で楽になる世界

理想

DX化・AIの導入により

- ・単純作業が自動化され、**ヒューマンエラーが減ることによる生産性の向上が見込めます。**
また、単純作業やヒューマンエラーが起こりうる作業はストレスの元でもあるため、**今までより仕事を楽に感じる**ことができる可能性があります。
- ・単純作業をAIに任せることで、人間はよりクリエイティブな仕事に注力することができます。
- ・今まで時間のかかっていた作業が自動化されることにより業種によっては労働時間そのものを短縮することが可能になります。そうすることで**従業員の自由な時間を増やすことができ、生活満足度の向上を望めます。**

現実

◇今までと違う、は便利ではない

- ・現状維持バイアスといって、人間には今の状態を維持したいという欲求にも似たバイアスが備わっています。新しいものを取り入れることで現状が悪化する「気がする」のです。結果として、いかに便利であろうとも、その導入が拒否されることは少なくありません。

◇失うことへの恐怖

- ・2013年、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン教授が**多くの職業が将来AIによって自動化される**という旨の論文に代表されるように自分の仕事が奪われてしまうかもしれないという不安がAI導入を拒んでしまいます。プロスペクト理論といって、人間は得るよりも失う方が2~3倍強く感じるため、AIで得るメリットは帳消しにされるでしょう。

◇自由な時間が多くても逆効果

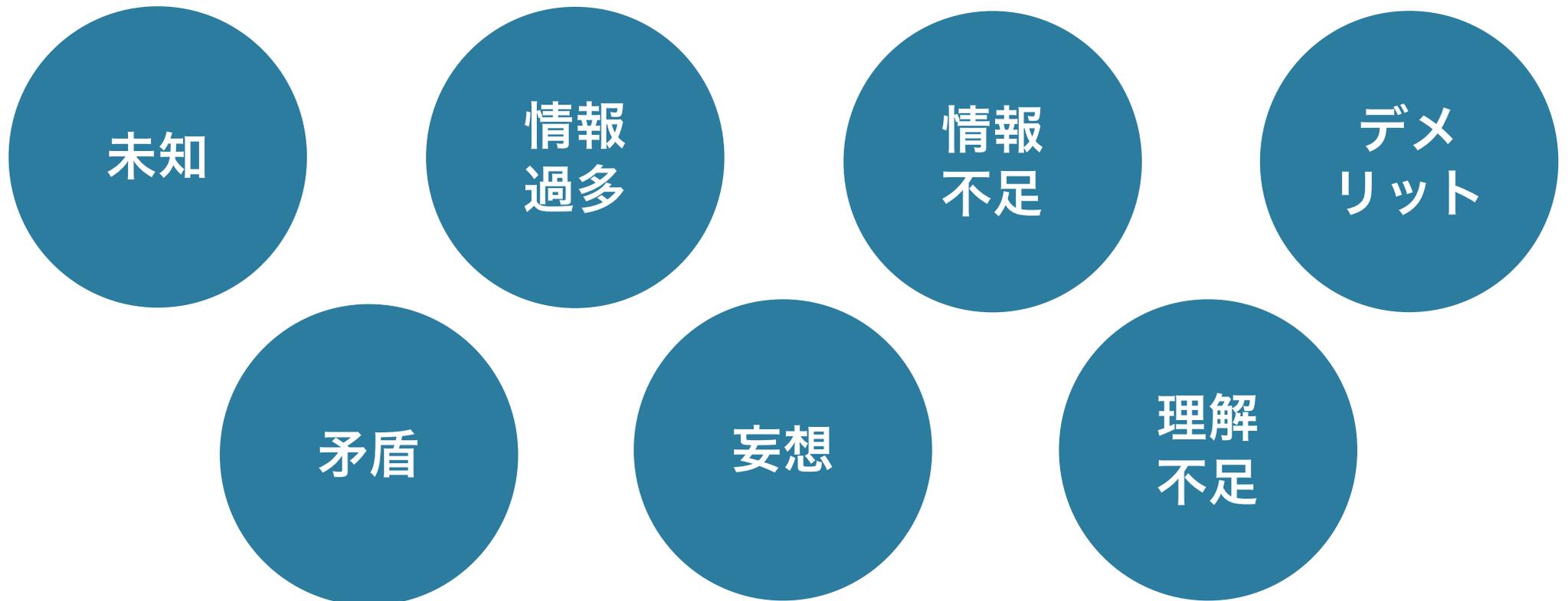
- ・人間は自由な時間を求める反面、1日に2時間~5時間以上の自由な時間は逆に幸福感を下げてしまいます(※11)。

このように、人間は例え自分の生活や仕事が便利で楽になるという**大きなメリットがあるとしても新しい技術や考え方には拒否反応を示します。**いかに技術が発達しようとも、人間がそれを受け入れるのには長い時間がかかってしまうのです。

変革と不安

人の本質の拒否反応・変革の理想と現実の食い違いは、漠然とした不安に繋がります。

不安を生む代表的な要素

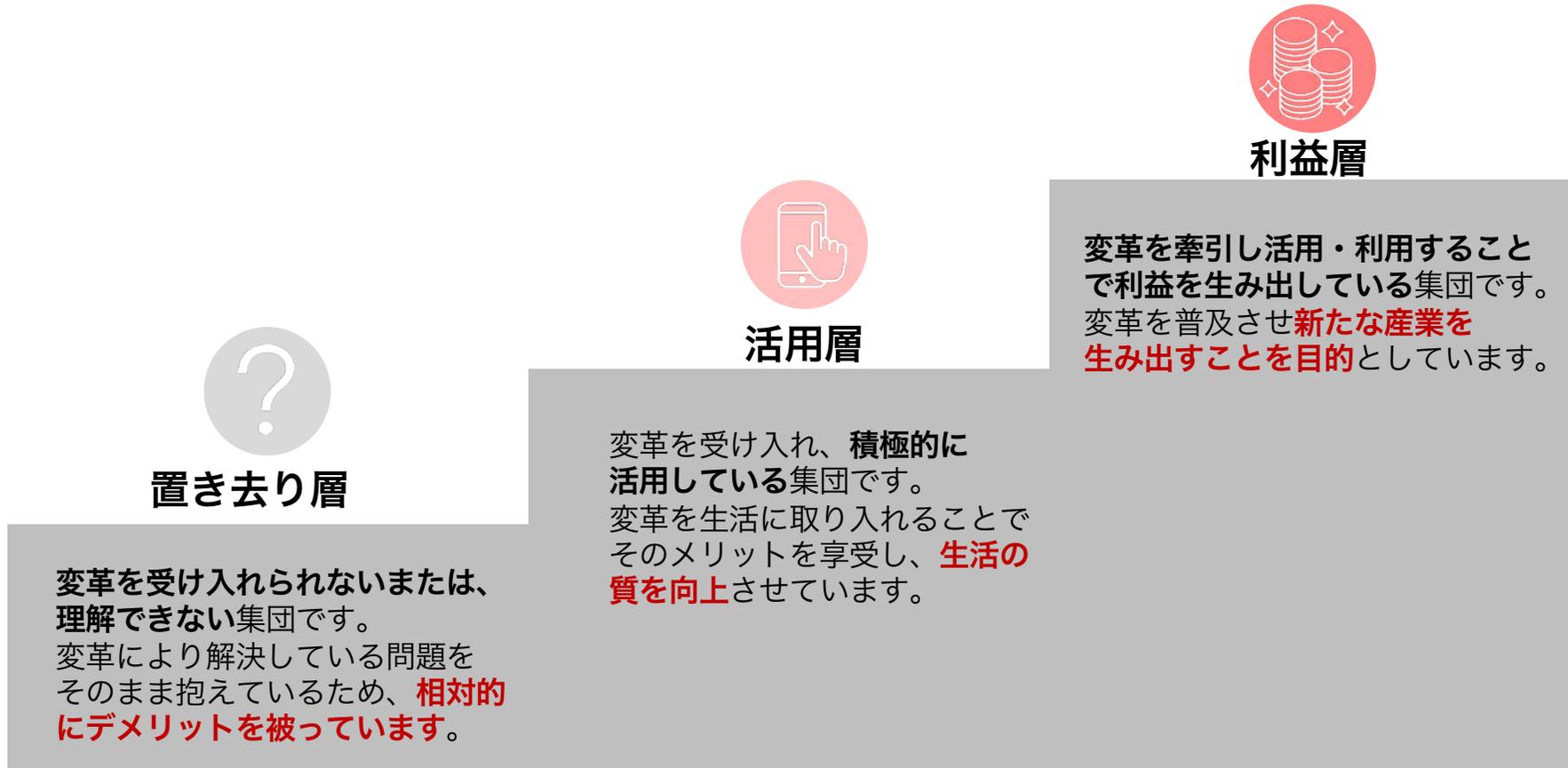


これらの要素をクリアにしなければ、変革が受け入れられることは難しいです。しかしながらこれらの要素は変革にはつきものです。そして不安は混乱を生みます。

新たな格差と歪む理想

生まれる_新たな格差

変革が起こると、それを受け入れることができる人・そうでない人、理解できる人・できない人など **新たな格差が生まれます。**

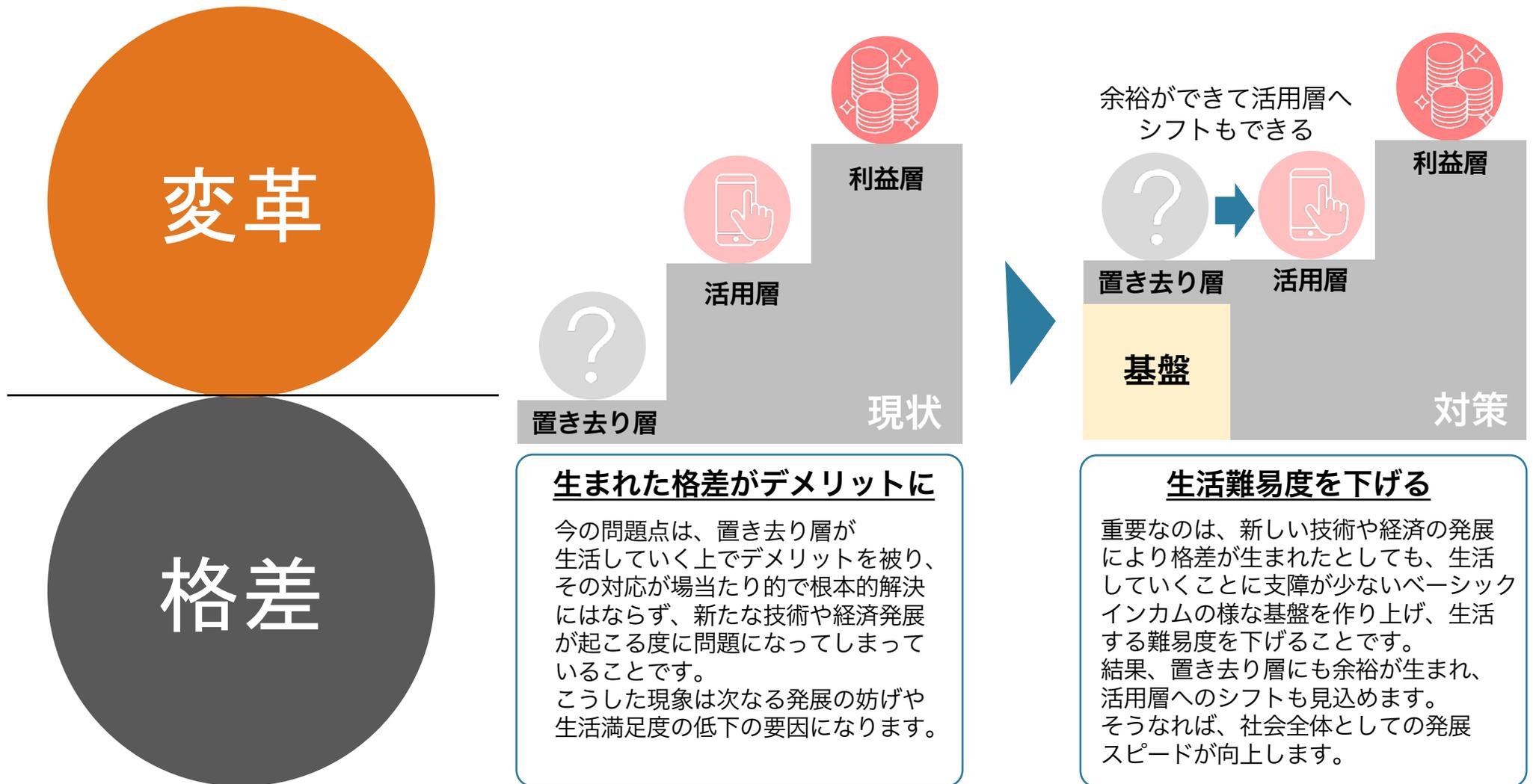


経済格差、労働格差など、大きく目立つ格差は**変革による格差の積み重ねが1つの原因**となっています。また、置き去り層の割合が多いと、変革を利用した産業を生み出したとしても利用されないため廃れてしまい、**経済発展を遅らせる、または経済の衰退を招きかねません。**

格差が生まれることの意味

格差が生まれてしまうこと自体は悪ではない

格差が生まれるということは、新しい技術や考え方が生まれたり経済が発展している指標でもあります。格差自体を生まないようにするのではなく、**生まれた格差が問題にならないようにすることが重要な対策**です。



歪む理想

しかし、こういった根本的な解決策は支持されにくいのです。

1つは**根本的な解決策もまた、考え方の変革である**ことが理由です。

もう1つは、「自転車置場効果」といって人は難しい問題より、誰もが思いつく・目が行くような些細な問題やわかりやすい問題・解決策に飛びつきやすいという性質があることが原因です。

そのため、**支持される解決策が場当たりの的になりがち**なのです。

その結果、不安・混乱・混沌の状態を脱するために、理想が歪んでいきます

よく理想とされるもの

認識されている現実

歪んだ理想



- ・ 全ての人に等しく機会が与えられるべきである
- ・ すべての人が同水準の生活を送れることが望ましい
- ・ これらを実現すべく助け合いが必要である

- ・ 新しいことへの拒否反応
- ・ 歪んだ情報の拡散
- ・ 変革による新たな格差
- ・ 変革の理想と現実の食い違い
- ・ 漠然とした不安

- ・ 受け入れられない、理解できない人がいる技術や考え方は積極的に採用せず、現状の問題解決と発展を目指す

人の本質が
変革を嫌い

食い違う
変革の
理想と現実

不安が
生まれ

変革と共に必ず訪れる

世も 混乱と混沌

そして…

歪んだ理想の実現のために集団は動く

変革

格差が
それを加速する

結果
理想が歪み

次回予告

未来

今回はついに、未来に触れます。

混乱と混沌が渦巻く中
それでも**変革し続ける世界**そして続く**人の本質の拒否反応**

人々が選ぶのは**停滞？ 発展？**

歪んだ理想の実現へと歩を進めている我々は
本当は何をすべきなのか？

SDGsの目標は達成はどうか？

そして行き着く**2030年**。
日本はユートピアかディストピアか…？

乞うご期待…！

参考元

- (※1) Mueller, Jennifer S.; Melwani, Shimul; Goncalo, Jack A. 『Why People Desire But Reject Creative Ideas』
<https://ecommons.cornell.edu/handle/1813/74949>
- (※2) Jos Hornikx, Adam J. L. Harris, Jordy Boekema 『How many laypeople holding a popular opinion are needed to counter an expert opinion?』
<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13546783.2017.1378721>
- (※3) Man-pui Sally Chan, Christopher R. Jones, Kathleen Hall Jamieson, Dolores Albarracín 『A Meta-Analysis of the Psychological Efficacy of Messages Countering Misinformation』
<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/0956797617714579?journalCode=pssa>
- (※4) Jonas De Keersmaecker, David Dunning, Gordon Pennycook, David G Rand, Carmen Sanchez, Christian Unkelbach, Arne Roets 『Investigating the Robustness of the Illusory Truth Effect Across Individual Differences in Cognitive Ability, Need for Cognitive Closure, and Cognitive Style』
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/31179863/>
- (※5) Daniel A. Effron, Medha Raj 『Misinformation and Morality: Encountering Fake-News Headlines Makes Them Seem Less Unethical to Publish and Share』
<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/0956797619887896>
- (※6) Gillian Murphy, Elizabeth F. Loftus, Rebecca Hofstein Grady, Linda J. Levine, Ciara M. Greene 『False Memories for Fake News During Ireland's Abortion Referendum』
<https://journals.sagepub.com/doi/abs/10.1177/0956797619864887?journalCode=pssa>
- (※7) Erica R Bailey, Sandra C Matz, Wu Youyou, Sheena S Iyengar 『Authentic self-expression on social media is associated with greater subjective well-being』
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33024115/>
- (※8) John T. Cacioppo, Stephanie Cacioppo, Gian C. Gonzagab, Elizabeth L.Ogburnc, Tyler J. VanderWeele 『Marital satisfaction and break-ups differ across on-line and off-line meeting venues』
<https://www.pnas.org/content/pnas/110/25/10135.full.pdf>
- (※9) Holly B Shakya, Nicholas A Christakis 『Association of Facebook Use With Compromised Well-Being: A Longitudinal Study』
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/28093386/>
- (※10) Brian A. Primack, MD, Ariel Shensa, Jaime E. Sidani, Erin O. Whaite, Liu yi Lin, Daniel Rosen, Jason B. Colditz, Ana Radovic, Elizabeth Miller 『Social Media Use and Perceived Social Isolation Among Young Adults in the U.S.』
[ajpmonline.org/article/S0749-3797\(17\)30016-8/fulltext](http://ajpmonline.org/article/S0749-3797(17)30016-8/fulltext)
- (※11) Sharif, Mogilner, Hershfield 『Having too little or too much time is linked to lower subjective well-being.』
<https://doi.apa.org/doiLanding?doi=10.1037%2Fpspp0000391>